

「修了証書」

3月14日（金）は、本校の卒業式でした。今年度は幼稚部の3名が修了となりました。幼稚部での学びを終え、その集大成となる卒業式は、校長から主役である3人の修了生へ修了証書を渡すところが、式の中で一番となる場面ではないでしょうか。

私が教員になってひそかに夢見ていたことがありました。それは、修了証書や卒業証書に自分の名前を自分で書いた証書を渡すというものです。

私は小学2年のころ、実家の近くの書道教室に通い、その後書道に関係する素晴らしい先生たちや先輩方、仲間との出会いがあり、現在まで辞めることなく続けてきました。

書道をずっと続けていることもあり、教員に採用されて以来、勤務する学校の修了証書や卒業証書は書き続けてきました。証書を書くときは、修了生や卒業生の名前や生年月日を書くことはもちろん、学校長の名前も書くわけです。当然、自分の名前は書くことはありません。いつも気持ちを込めて一枚一枚書くのですが、いつか叶う日が来るならば、自分の名前を筆で書いて渡してみたいと願うようになりました。

今年度、弘前聾学校の校長として赴任することになり、私の長年夢見たことが実現できることになりました。卒業式の計画段階で、教務主任に「証書は私に書かせてほしい」とお願いし、夢実現の運びとなりました。

揮毫にあたって、墨をすりながら、幼稚部3人の子供たちの顔や保護者や学習場面を思い浮かべながら、気持ちを高め集中していきました。

一筆一筆魂を込めと言ったら大げさかもしれませんが、校長として気持ちを込めて書かせてもらいました。そして、自分の名前を書くときは、長年の夢が叶うことに感慨深いものがありました。

卒業式当日、一人一人に修了証書を手渡し、幼稚部の3人の子供たちの成長した姿に感動を覚えました。

パソコンやスマートフォンの普及に伴い、手書きで書くことが少なくなる今日ですが、修了証書の揮毫を通じて、気持ちを込めて書くことの大切さと、筆書きの良さを改めて感じた日でもありました。

修了おめでとう

